令和6年度 第4回 赤磐市地域公共交通会議議事録

日時：令和6年12月26日（木）13:30～14:20

会場：赤磐市役所 3階協議会室

1. 開会

会長挨拶

前回会議内容の確認

2. 報告事項

(1) バスの乗り方教室 開催概要（開催結果）について

◇資料説明

事務局：資料1をご覧ください。（1）バス乗り方教室 開催概要（開催結果）についてご報告させていただきます。1ページをご覧ください。令和6年11月18日月曜日に釣井地区の取り組みの中で、バスの乗り方教室を開催し、18名の方に参加いただきました。開催の目的は、令和6年12月2日から熊山地域デマンド型市民バスの実証運行を開始するにあたり開催したものです。内容は、熊山地域デマンド型市民バスの利用方法及びAIシステムを使った予約方法について説明を行いました。意見交換では、現在の定時定路線では停留所まで遠くて使いにくいというご意見や、乗り合わせて英国庭園にも行ってみたいというご意見がありました。釣井地区の乗り方教室の概要は以上です。2ページ目も同様に、12月2日から熊山地域デマンド型市民バスの運行にあたって周知を行いました。令和6年11月21日木曜日に弥上地区のふれあいサロンの取り組みの中で開催し、17名の方に参加いただきました。意見交換では、現在の定時定路線では停留所まで遠くて使いにくい、赤磐医師会病院、岡山市内への病院へ行きたい場合、宇野バスとの接続はどうなるのかといったご意見がありました。予約の際に、到着時間の目安が表示されますので、その目安を確認して予約していただきたいと説明しました。以上が乗り方教室の説明です。参考までに、昨日までに熊山地域デマンド型市民バスに利用登録された方は、アプリでの登録、紙での登録を合わせて79名です。12月2日からスタートし、利用者数は24名です。始まったばかりで利用者が伸びていない状況ですが、引き続き乗り方教室を開催しながら実施していきたいと思っております。また年明けには佐古地区をはじめ、他の地区でも予約が入っていますので、進めていきたいと考えております。説明は以上です。

◇質疑応答・意見

委員：利用者数24名というのは延べ人数か。

事務局：延べ人数である。主な行き先はJR熊山駅、熊山診療所、熊山支所が多

- い。
- 会 長：今の質問に関連して、同じ方が何回も使っていると思うが、24名の中で実人数は何名か。
- 事 務 局：約10名程度である。
- 委 員：まだ始まったばかりで実績も少ないと思うが、実際に乗り合いで利用された事例はあるか。
- 委 員：先日1件あった。熊山駅から乗る方と診療所から乗る方がちょうど良い兼ね合いで乗り合わせた事例があった。今後もこのような利用が続けば無駄な運行が減らせると思った。
- 会 長：他に何かあるか。始まったばかりなので、周知活動しながらまたご報告いただければと思う。

3. 協議事項

- (1) 令和6年度生活交通確保維持改善計画（地域内フィーダー系統）の自己評価について

◇資料説明

事 務 局：資料2をご覧ください。（1）令和6年度生活交通確保維持改善計画（地域内フィーダー系統）の自己評価について説明いたします。1ページをご覧ください。評価対象は吉井地域のデマンド型市民バスです。国の地域公共交通確保維持改善事業による支援を受けた事業は、毎年度会議において事業の実施状況の確認、評価を行い、1月末までに中国運輸局へ評価の結果を報告することになっています。評価の実施期間は令和5年10月1日から令和6年9月30日の1年間です。結果は、⑤目標・効果達成状況をご覧ください。コロナ禍ですが、利用者は年々増加傾向にあり、1,518人の利用があり、目標値1,210人を上回りました。前年度も目標値1,210人に対して利用者1,238人と目標を達成しています。路線ごとの分析結果は、西勢実・中勢実線と暮田・平山線を周匝まで延伸した結果、8割以上の方が周匝周辺を利用しています。また、仁堀停留所から広域路線バス赤磐・美作線に乗り換えて下市まで利用される方が多くいらっしゃいました。城南地域を運行している是里線と河原屋線では、定期的な買物利用が増加しています。また、周匝停留所から広域路線バス赤磐・美作線に乗り換えて下市まで定期的に利用される方が増えたことにより、延べ利用者数が大幅に増加しました。以上のことから、目標・効果達成状況については目標を達成しましたので、A評価としました。次に、⑥事業の今後の改善点です。先ほどの⑤で目標は達成したと説明しましたが、更なる改善として、令和7年度より新たに周匝、福田、稲蒔、光木、塩木地域を追加し、吉井地域全域をデマンドエリアとして設定します。併せて運行便数を増やし、予約時間も現在前日17時までを2時間前までに短縮し利便性を向上させます。熊山地域で12月から導入したAIシステムを、吉井地域と赤坂地域にも導入し、利用予約状況に応じた最適なルートを計算し、効率的な運行を行い、更なる利便性向上に努めます。また、令和7年4月1日からは吉井地域の周匝上から赤坂地域町苅田を經由して瀬戸駅への乗り入れを行い、利便性向上に努めます。以上が令和5年10月から令和6年9月までの1年間

の目標達成状況及び今後の改善点の説明です。2ページ目からは令和6年度地域公共交通確保維持改善事業 事業評価、生活交通確保維持改善計画（地域内フィーダー系統）の概要を記載しています。全体説明は省略します。3ページ目、一番下の部分ですが、昨年度の運輸局の二次評価に対するフォローアップについて説明します。「目標が達成できなかった取り組みについて、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い公共サービスが提供されることを期待する」との評価がされていました。運行事業者と利用者へのヒアリングで利用実態を把握し、店舗や診療所へ時刻表を配置、制度の説明を行いました。実施した利用促進策としては、側面からの支援策として、令和6年2月から赤磐市ハレカハーフを導入しています。吉井地域への利用促進策としては、令和6年8月に吉井地域の全区長に対して、デマンド型市民バスの利用方法、令和7年4月からの区域変更について周知しました。続いて4ページをご覧ください。4ページの目標・効果達成状況、事業の今後の改善点は、先ほど1ページ目で説明した通りですので省略します。5ページには交通体系図、6ページには運行系統図を掲載していますのでご覧ください。以上で説明を終わります。

◇質疑応答・意見

- 委員：路線が延伸し、経費がかさんでいる。予算の見直しは考えているか。
- 事務局：吉井地域では来年4月から補助金の支給方法を変更する。かかった運行経費に乗合率をかけ、コールセンター運営費を合わせて支給するよう、要項を変更する。
- 会長：利用者、運行事業者、それぞれに色々な意見があると思うので、協議を進めていただきたい。
基本的に目標を達成しているので問題ないと思うが、表現で問題点があればご指摘いただきたい。特に問題ないようでしたら、この案件承認いただけるかどうか伺いたいと思う。承認いただける方は挙手にて意思表示をお願いいたします。

（一同承認）

会長：では承認という事で次に進みます。

- (2) 赤磐市地域公共交通計画の変更について
(3) 令和7年度地域公共交通確保維持事業に係る計画変更について

◇資料説明

事務局：協議事項(2)赤磐市地域公共交通計画の変更について、及び(3)令和7年度地域公共交通確保維持改善事業に係る変更について、一括して説明します。まず資料3から説明します。赤磐市地域公共交通計画を変更する理由は、デマンド型市民バスについては国の地域公共交通確保維持改善事業を活用しており、その補助事業を活用しているため、赤磐市の地域公共交通計画に補助系統を位置づけています。令和7年4月から新たな系統として周匝線を新設するため、計画に新たに追記する必要が

あります。また、この変更併せて、令和6年12月から運行している熊山地域のデマンド型市民バスについても、支線に熊山地域を追記します。令和7年4月からは広域路線バス赤磐・瀬戸線の運行も予定されているため、広域幹線に赤磐・瀬戸線も追加します。1、2ページ目は今回の変更に伴う赤磐市地域公共交通計画の変更箇所を抜粋掲載しています。3～5ページ目は新旧対照表を掲載しています。資料3の説明はこれで終わり、次に資料4、令和7年度地域公共交通確保維持事業にかかる計画変更について説明します。この計画は令和6年5月1日、第1回赤磐市公共交通会議で承認いただいた計画案件です。計画変更は国庫補助を活用するための変更で、資料3で説明した公共交通計画と補助制度の連動化の必要性、令和7年4月から周匝線を新設することに伴う変更です。主な変更内容は、周匝線の新設、西勢実・中勢実線の塩木・光木といった新たな区域変更に伴う目標値の変更です。計画変更箇所は朱書きしていますが、全体説明は省略し、周匝線、新たな区域変更に伴う目標値の変更について説明します。資料は4ページです。こちらに系統ごとの目標値の設定があります。見え消ししていますが、令和4年10月～令和5年9月の利用実績の水準を維持する目標値を設定していました。今回の変更では、令和6年度の実績が確定したので、令和5年10月～令和6年9月の実績、及び令和7年4月1日からの計画変更による増加を見込み、目標値を変更します。来年4月から周匝線を導入することで利用者数は60人と見込み、西勢実・中勢実線はプラス18人と見込み、合計では実績にプラス78名を加えた目標値を設定しています。目標値の設定は、年々人口は減少傾向ですが、利用促進を図りながら令和6年度の実績水準を維持するものです。次に5ページです。赤坂地域も合わせて変更します。赤坂地域では令和6年1月から実証運行としてデマンド型市民バスを導入し、11月から本格運行に移行しました。計画では前年度の定時定路線の実績で目標値を設定していましたが、吉井地域と同様に令和6年度の実績が確定したので、改めて月平均で算出し目標値を見直しました。7ページ目に系統ごとの目標値の設定があります。赤坂地域の系統は赤坂地域全域という系統ひとつです。赤坂地域全域の利用者数目標値を605から実績に基づき750に変更します。目標値の設定についても吉井地域と同様に、人口減少の傾向ですが利用促進を図りながら令和6年度の実績水準を維持します。

◇質疑応答・意見

委員：デマンド型市民バスの利用が増えてタクシーの利用が減り、タクシー事業の運転手の雇用が難しくなっているように感じる。そのあたりはどのようにお考えか。

事務局：吉井地域、特に荒嶋タクシーさんが運行している西勢実・中勢実線では、令和5年から周匝へ延伸し利用が増えている。タクシー利用が減りデマンドに切り替わっている状況で、また、運転手も高齢化しており、厳しい状況だと伺っている。市は二種免許取得の補助、県も同様の補助制度を今年度から実施している。そのような制度を活用してもらいながらタクシードライバーを新規で確保していただきたい。

委員：運転手を確保するには仕事量が必要だと思うが、どのようにお考えか。

事務局：高齢化と人口減少で、どこの運行事業者さんも、運転手の確保が難しい状況にある。これは赤磐市だけでなく全国的な状況で、2024年問題による時間規制もあり、運転手の確保は厳しくなっている。吉井地域では人

を雇うにも利用者がいないと難しい面がある。吉井地域でも利用促進のため、来年4月から貨客混載を取り入れるなどして利用者を増やし、4月からは熊山と同じようにAI デマンドを導入し、利用者増加を目指す。

会 長：タクシー事業で採用したドライバーはタクシー専用で、乗合事業では使わないのか。

委 員：基本的にはそうだが、タクシーの仕事が少ないので、デマンドの運行もしてもらうこともある。市の仕事だが、人口が少ないので仕事が増えることはないと思う。デマンド運行で事業者の経費がかさんでいるので、市から年間売上が例えば100万以下なら補助金を出すといったお考えはあるか。

委 員：つまり、タクシーの仕事をデマンドに取られているという事か。

委 員：そうである。

事 務 局：現状は日額2万円という要綱で補助金を支給しており、来年4月からは要綱を改正し、実際に走ったタクシー経費の実績に応じて、乗合率をかけ、コールセンター運営費も合わせて支給するように変更する。

会 長：事務局から説明いただいた内容を考えると、デマンドでもタクシーでも、会社としての収入は変わらない、もしくは増えるのではないか。

事 務 局：その通りである。タクシーがデマンドに代わり、更に乗り合いが発生すれば乗合率をかけるので、実際には今より収入は増える見込みである。

会 長：乗り合いがないと収入にならないという事にはならないと思うが、タクシーとして使われようが、デマンドで使われようが、事業者としての取り分は変わらない。もしかしたら増えるかもしれない。そういう計画の話だと思うので、そのあたりを事務局と相談してください。

実はこれと同じような事が県内各地で事業者さんから言われている。デマンドによる減少なのか、高齢化や人口減少によるタクシー需要の減少がデマンドのせいに見えてしまうということなのか、様々な契約形態にもよる。そのあたりが各地で意識されている。赤磐市が検討している内容は事業者にとって優しい内容だと思う。そのあたりをお互いに状況を理解し合って進めていただきたい。他の事業者も含めて理解していただけるようにお話し合いいただければと思う。

言葉の問題だが、資料4の2ページ、吉井地域の表で「人口の推移」とあるが、人口推移を推計だと思う。軽い文字修正なので、修正をお願いします。もうひとつ、3ページのグラフについて、令和6年までの総人口と令和7年以降の推計値の差が大きいですが、これは本当か。令和6年は3,342人だが、令和7年は2,695人になっている。他の地区、例えば6ページを見ると、それなりに続いているように見えるが、3ページのグラフは段差が大きい。正しい推計か、どこまでのデータで将来推計しているのかわからないが、見るからに間違えているように見えるので、修正いただけると良いと思う。もし合っていれば大丈夫です。

事 務 局：失礼いたしました。事務局で確認します。

会 長：他に何かございますか。2つの議題をまとめてお話しいただいているが、どちらも連動しているのでまとめて伺う。協議事項(2)と(3)、この2つの議題について、事務局から提案された内容で、若干の修正はあるかもしれないが、承認いただける方は挙手をお願いします。

(一同承認)

会 長：では承認という事で、次に進みます。

4. その他

事 務 局：前回の会議で会長からお話がありました、赤坂地域で1月からデマンド型市民バスを運行開始し、11か月が経過しました。それに伴い、赤坂地域の広報配布に併せて、デマンド交通導入の効果があったか、利用者、非利用者の意識調査を実施するというお話でした。12月20日の広報で配布し、1月13日月曜日までにご返送いただくようお願いしており、既に30件ほど回収しています。アンケート回収後は橋本先生にご協力いただき、集計結果を公共交通会議でご報告させていただきます。熊山地域、吉井地域でも、機会があれば実施したいと思います。

会 長：赤坂地域の方にアンケートを配布しています。地域にとってどのような意識変化が生まれるのか、地域に住み続ける意識が強くなるかなどが分かると思います。他の地域への導入の判断材料にもなりますので、多くの方に回答していただければと思います。赤坂地域の代表の方、ご協力をお願いします。集計結果がまとまりましたら、この会議でご説明させていただきます。

5. 閉会

事務局挨拶